

PAT-NO: JP355046432A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 55046432 A  
TITLE: MANUFACTURING METHOD OF LEAD BATTERY  
PUBN-DATE: April 1, 1980

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
CHIGI, YOSHITAKA

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
SHIN KOBE ELECTRIC MACH CO LTD N/A

APPL-NO: JP53120291  
APPL-DATE: September 29, 1978

INT-CL (IPC): H01M002/06  
US-CL-CURRENT: 29/623.1, 429/181

ABSTRACT:

PURPOSE: To simplify the manufacturing, to prevent the leakage of electrolyte and to reduce the weight of battery, by thermally bonding the thermoplastic synthetic resin packing portion formed on the pole column with the cover.

CONSTITUTION: A plurality of projections 2 are provided around the pole column 1 then thermoplastic synthetic resin packing portion 4 is formed while surrounding said projections 2 to provide electrode board group 3. Then the packing portion 4 of said electrode board group 3 and the

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-46432

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 01 M 2/06

識別記号

庁内整理番号  
6412-5H

⑬ 公開 昭和55年(1980)4月1日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 鉛蓄電池の製造法

⑮ 特 願 昭53-120291

⑯ 出 願 昭53(1978)9月29日

⑰ 発 明 者 千木慶隆

東京都新宿区西新宿二丁目1番

1号新神戸電機株式会社内

⑱ 出 願 人 新神戸電機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目1番

1号

⑲ 代 理 人 勝木式朗

明 細 書

1. 発明の名称 鉛蓄電池の製造法

2. 特許請求の範囲

極板群に設けられる極柱の複数筋の突出部に、熱可塑性合成樹脂により包覆部を形成し、該包覆部と蓋とを熱溶着することを特徴とする鉛蓄電池の製造法。

3. 発明の詳細な説明

従来自動車用蓄電池の端子部の構造は、極板群の極柱と溶接すべく、蓋の極柱挿通口部に鉛ブッシングをインサートしていたが、該方式は鉛ブッシングを別工程で製作する必要があり、またブッシングとして鉛を必要とし、而も蓋の射出成型が煩雑となり、價格的にも高価となる等の欠点を有していた。

本発明は上記の如き欠点を除去するもので、極柱における蓋のブッシング部に相応する部分に設けられた複数筋の突出部に、熱可塑性合成樹脂により包覆部を形成し、該包覆部と蓋とを熱溶着することにより、電解液洩れを防止せん

とするものである。

本発明の一実施例を説明する。

従来の蓋にインサートされたブッシング部に相応する部分において、極柱1の周囲に複数筋の突出部2を設けた該極柱1を予め用意し、第1図に示す如き極板群3を製造する。次に熱可塑性合成樹脂により、第2図に示す如く突出部2を包覆して包覆部4を形成せしめ極柱1と包覆部4とを固定化後蓋5と包覆部4とを熱溶着する。

かくして得られた蓄電池は、電解液洩れを防止することが出来るのみならず、従来の如き鉛ブッシングが不要となって鉛量が減少され、また蓋製造に關しての簡易化は勿論のこと、鉛ブッシングと端子用極柱の溶接が不要となり材料費や加工費を大巾に低減することができさらに蓄電池の輕量化を図り得るものである。

上述せる如く、本発明によれば蓄電池の製造が簡易化され、また蓄電池の電解液洩れを防止し、さらに蓄電池の輕量化を図り得る等工業的

価値甚だ大なるものである。

4. 図面の簡単な説明

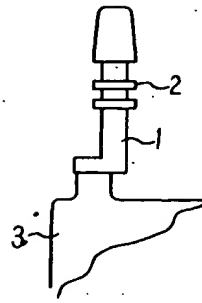
第1図は塩柱に包覆部を形成する前の塩板群の要部斜視図、第2図は塩柱に包覆部を形成した塩板群の要部斜視図、第3図は塩板群の包覆部と蓋とが溶解された状態を示す要部斜視図である。

1は塩柱、2は突出部、3は塩板群、

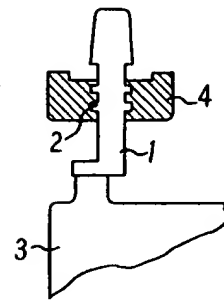
4は包覆部、5は蓋

代理人 勝 木 弼 朗

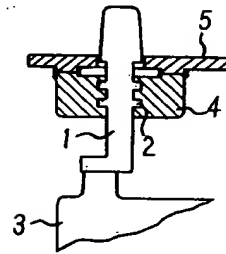
第1図



第2図



第3図



- 3 -